

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷 (ユニット名)すずらん		
所在地	北海道空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0175800309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 鶴城の郷のケア理念にあげている「ひとりひとりのペースを守り共に支えあう」「家族や地域のふれあいを大切にする」を常に念頭におき日々のケアを実践しています。母体の医療法人の協力を得ながら、健康管理や医療面の知識の習得や老健ゆうの協力を得ながら、栄養状態や嚥下、咀嚼、姿勢保持の方法の知識の習得などに力を入れ、皆様が健康に日々過ごしていただけるように努力しています。立地条件的には市街地から離れていますが、建物の空間が広く、開放的な雰囲気です。周囲に畑もあり、自然豊かな環境です。家庭的な雰囲気と個人の時間を尊重しています。入居されている皆様が支えあって生活していけるような支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 鶴城の郷」は、周囲に田園が広がる自然豊かな場所に建っている2ユニットの事業所である。敷地内の庭には畑やぶどう棚をつくり、ぶどう狩りを楽しんでいる。建物内の居間上部は吹き抜けになっており、開放的で居心地のよい空間になっている。当事業所は開設15年が経過し、地域との関わりを実践している。利用者は法人主催の「ゆう祭り」に出かけたり、来訪する学童保育の子供たちやボランティアとの交流、バーベキュー行事には地域住民や家族と一緒に楽しむなど、継続して交流を行っている。今年に管理者の交代があり、法人内での管理職歴を活かしながら、新たな視点で職員と共に利用者が安心して暮らせるように環境整備を進めている。運営推進会議と同日に避難訓練を行い、また台風、及び地震による停電に伴い、法人と防災対策について更に検討を重ねている。今年度は「身体拘束廃止に関する指針」を新たに作成し、法人内に「身体拘束廃止委員会」を設置する中で、内外の研修で学びを深めて拘束をしないケアに取り組んでいる。訪問看護ステーションや協力医療機関の連携の基で、外来受診を軸に、調理などの工夫でホームでの生活を可能な限り支援している。利用者担当職員が3か月ごとにモニタリングを行い詳細な介護計画に沿って、職員は利用者の自発的な暮らしを温かい姿勢で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、皆が確認できるように提示している。事業計画にも盛り込んでいる。また、日々のケア・行事・業務においては理念に基づいて検討、実践している。行事などを通じて、ご家族様や地域の方に来ていただく機会を設けている。	事業所ケア理念の中に地域とのふれあいを明記して掲げている。年度の事業計画にも理念の精神を盛り込み実践につなげている。職員は利用者のペースに沿っているかを業務の中で振り返り、理念を意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地が離れていて交流の場は少ないが、バーベキューや避難訓練に地域のかたへ声をかけ、参加していただいている。学童保育との交流も夏休みの期間を利用し、毎年継続している。南幌神社祭の御神輿見学は関係者のご協力により、鶴城前を通っていただき、皆様、馴染みの習慣に喜ばれていた。	近くにある小学校の運動会総練習を見学し、また学童保育の子供たちが遊びに来てゲームなどを楽しんでいる。バーベキュー行事に運営推進会議委員の参加があり、月ごとの誕生日にはボランティア来訪での催しもある。法人「ゆう祭り」に出かけて住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や地域行事への参加で理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を行っている。報告・話し合いを行い、地域の老人会、保険者からの意見やアドバイスをいただき、運営に反映させている。	会議に老人会、行政のほか、家族は1～2名の参加なので、参加が難しい家族の意見を会議に活かしたいと考えている。今年9月の台風、また地震から停電になり、委員から緊急時の連絡についての意見があり、今後対応を考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換を常に行っている。運営推進会議・避難訓練への参加もいただいている。	介護認定申請の代行で町役場に出かけたり、事例や制度で分からない時は確認している。事業所の避難訓練やバーベキュー行事には町職員の参加も得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部の研修に参加し、身体拘束をしないケアを実践している。夜間の施錠以外は開けていて、ユニット同士が協力しあい、ゲームや外出などの気分転換を図っている。言葉での抑制にならないように気をつけている。身体拘束廃止委員を中心に身体拘束廃止の指針の理解やセンサーの使用の見直しを毎月行っている。	今年度「身体拘束廃止に関する指針」を新たに作成し、職員に周知している。法人内に「身体拘束廃止委員会」を設置し、事業所の担当委員を中心に内部研修を行っている。毎月ユニットで状況を確認し、身体拘束をしないケアに取り組み、研修の中で禁止の対象となる具体的な行為を学び理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加や外部の研修会参加をミーティング等で周知、不適切なケアに繋がっていないが振り返っている。日々、言葉や精神面での拘束に注意している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に新規の相談ケースについては制度の説明を行っている。現在は対象者はいないが、経済的な保護を必要とするかについては、関係者にその都度相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、文章を用いてご家族様(必要な場合はご本人様も含め)説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にはご家族様と話し合う機会を設けている。また、法人全体で意見や要望をくみ取るシステムを構築しており、アンケートの配布や意見箱の設置など表しやすい様にしている。	家族の来訪時にケアや介護計画の意向を確認し、担当職員が毎月の便りで暮らしを伝えている。年2回のアンケート実施で、回収先の方法を検討している。意見などは生活日誌に記載しているが、些細な思いを把握する記録までにはなっていない。	職員の気づきも含めて、家族の個別の些細な思いを把握するために、利用者ごとに別紙の記録で職員間で共有できるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例のミーティングやカンファレンスでの話し合いのほか、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える機会を意識している。職員と管理者は年に2回個別面談を行い、悩みや意見を出し合う機会がある。毎月、定例で法人の役職者との話し合いも行っている。	カンファレンスで介護計画の見直しやケアについて確認し、ミーティングでは業務の見直し、伝達講習等で意見を交換している。管理者は職員と自己評価の達成度などを話し合う中で、個人の事情に沿って、働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力や業務目標達成に応じた評価を行っている。職員との個人面談を行い、労働条件等の希望や把握に努めている。体調、年齢、家庭の状況を考慮した勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会を設けるほか、グループホーム内での伝達研修を行っている。また、新人職員が入職した時は、研修期間を設け、担当を配置している。個人のスキルアップの研修は、シフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のグループホームとの連絡会議があり、管理者が参加して情報交換や交流の機会を設けている。また、合同で普通救命講習を消防署で行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との会話や活動を通じて、何に興味があるのか、何をしたいのか、落ち着く環境(場所や人)を確認してケアに努めている。ご家族様との連携を密にして情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活スタイルや習慣に即して対応できるようにご家族様との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントなど、入居調整の段階で必要なサービスを把握し、入居時の介護計画サービスを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いや残存能力に応じた家事参加や趣味参加を通じて、日々の暮らしの中での役割や満足を感じていただけるように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の定例のお便り等での情報提供のほか、誕生会や行事への参加、面会時の情報交換など共に考え、参加して頂けるようにしていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話、面会の支援や理美容や歯医者は以前から利用しているところを継続して通っている。	近所に住んでいた友人や知人の来訪があり、家族を通して友人に手紙を書いている方もいる。受診時に病院で知人に会うことが多い。個人や数人の外出行事に自宅近くを通ることもある。家族と墓参、外食、買い物などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を重視し、また負担にならないように配慮して食事の座席や外出のメンバー等を考えている。また、あまり交流のない方に関しては、活動やレク、行事でお互いに楽しんでいただけるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先の確保に協力し、利用者やご家族が不安にならないようにしている。入院している時もお見舞いなど伺わせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でご本人の思いや希望をくみ取り話し合い、個別のケアプランを重視したかかりをしている。少人数での外出などを行っている。	会話などで意向を把握しているが、介護計画書1表の意向欄に具体的な言葉の記載が少ないように見受けられる。詳細に記載したセンター方式のシートを1年ごとに見直し介護計画に反映させている。	現在使用している(D-2)シートのその他欄に、暮らしの習慣、趣味嗜好などを記載し、変化などの追記で職員が記録でも共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族様や在宅時のサービス担当者からの情報把握に努めている。ケアマネや入所していた施設からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った1日の過ごし方を重視している。バイタルや精神状態・一般状態の把握を申し送り等を通じて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングで個別の介護計画を作成している。必要に応じて、栄養士やリハビリスタッフ、言語聴覚士を交えて相談をすることができる。	担当職員が3か月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスで確認後、6か月ごとに介護計画を作成している。計画の目標に沿って日々の記録を行い、今後はサービス内容の変化を分かり易く記載し、モニタリングにつなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが日々の生活記録から、支援経過に落とし込み、モニタリングや介護計画の見直しや日々の問題の原因究明に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他の事業所の専門職や町内の歯科医と連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や学童交流など地域の方々の活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の主治医への定期受診や検査、その他専門医への受診等は、家族と連絡を取りながら希望する医療機関への受診支援を行っている。	受診先の意向を聞き、ほぼ全員が職員の同行で協力病院に通院している。その他の専門病院はかかりつけ医を継続し家族が対応している。身体的な状況から送迎をすることもある。受診内容は個別に記録し、経過を把握している。	

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への状態報告は毎日行っている。また、毎週水曜日は訪問看護ステーションの職員が来訪し、状態を診て、相談や助言、医師の指示に基づいた処置を受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の環境の変化による負担の軽減のため、場合によってはご家族様の了解を得て、訪問看護を利用する機会がある。入院した場合も病院側と情報交換を密にして早期退院できるように努めている。協力医療機関はそれを十分理解し協力してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に沿って、利用者・ご家族様・医師と相談できる体制を作っている。また、契約時に説明し、ご家族様の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応が困難であることは事前にお伝えしている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。	「重度化に関する対応指針」にある看取りの考えを説明し同意を得ている。状態の変化で主治医の説明、指導のもとに調理の工夫や訪問看護師の制度範囲内の点滴など、家族の意向に沿って可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防での救命救急の研修や法人の協力を得ながら定期的な研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を実施している。防火訓練には、地域のかたにも協力をしていただき実施している。防災設備確認の部分訓練も行っている。	運営推進会議と同日に、消防署や委員の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施している。9月の台風や地震の際に停電が続き、家族への連絡に困難さも見られた。また備蓄品類の十分な量の検討も必要になっている。	早急に非常災害時の連絡、支援体制について法人と話し合い、緊急時の対応の確認を期待したい。また、冬季の非常災害も想定し、災害備蓄品の十分な整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や生活歴に配慮した対応をしている。また、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、気になる対応があれば勉強会で話し合っている。個人ファイルは事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人様の思いや希望を重視するように心がけている。自己決定の難しい方には、選択できるような工夫や日頃の関わりの中で反映するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや過ごし方を大切にしている。各自の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、馴染みのお店がある方は、外出支援を行い、不安になる方はホームに訪問していただき、カット、パーマ、カラーリングを行っている。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけや盛り付けは役割を持って行っていた。苦手な食材や咀嚼・嚥下の状態に応じて代替え品や食べやすい形態で提供している。	毎日の食事は調理されたものが提携会社から提供されている。利用者は職員と共にお好み焼きや団子などのおやつを作ることがある。必要に応じてミキサー食などを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂れるように支援している。また、嚥下困難なかたのためにトロミ剤やゼリーを作って対応し、水分量が確保できるようにしている。栄養不足のかたには、栄養補助食品を提供し、補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じた口腔ケアを行っている。舌の汚れも必要に応じてケアしている。変化があれば、歯科受診をしてアドバイスをいただいたり、定期的に訪問歯科に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、言葉かけやトイレ誘導を行い、パットやオムツの使用は最小限にしている。	「生活記録」に排泄状況を記録し、パターンを把握している。誘導時は羞恥心に配慮し、なるべく直接的な表現を避けている。半分ほどの利用者が何らかの排泄支援を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分補給・食物繊維をとるための工夫(果物やイージーファイバーなど)やヨーグルトやヤクルトなどの乳製品や起床時の牛乳の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外は入浴を実施している。気分や体調に合わせて入浴日や時間帯は調整している。	日曜日以外を入浴日とし、主に午後を中心に各利用者が週2回程度入浴している。入浴を拒む場合は翌日にずらすなどの対応をしている。入浴剤を使用し、気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのかたの生活習慣に合わせた就寝・起床介助を行っている。自らの訴えが難しいかたは表情や体調、疲労感などを考慮しながら休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化を医師に報告し、睡眠薬や下剤の調整も細かく行っている。薬剤情報で確認したり、訪問看護師に注意して観察する部分を助言してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や家事分担、各々の活動を通じてその方が得意とするものを行っていただいている。その日の気分によって活動の内容を変えて、柔軟に対応している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出行事や個別での希望に沿った外出の支援を行っている。ご家族様にも外出などをお願いしている。	事業所前が砂利敷のため歩行困難な方の散歩がややできにくい、行事や通院で外出している。行事は小学校の運動会見物、花見、いちご狩りなどを出かけている。ベランダで外気浴を行うこともある。	今よりも気軽かつ安全に事業所前で散歩や外気浴ができるよう、事業所前部分の舗装等による整備を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を所持している方はいないが、預けていることを理解されており、使用時は職員に依頼して与えることができるので、ご本人に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けていただいている。希望時は職員が代わりにかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは、自然豊かな季節の移り変わりを感じられます。明るい雰囲気重視し、制作した作品を飾り、季節感を感じられるようにしている。廊下やトイレは手すりを設置している。	共用空間は広く、窓からは周囲の田園風景が眺められる。壁に手作りのカレンダーや季節の貼り絵作品を飾っている。片方のユニットは神棚や大きな調理台、ピアノが設置され、もう片方のユニットにはウッドデッキのベランダがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や自席の配置を配慮して、自由に気の合った利用者様同士で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いをして、今まで使用していたものを用意していただいている。湯呑や茶碗、箸なども個々で用意していただき、自分のものと理解できるようにしている。	居室にベッドや衣装ケース、テレビなど利用者が馴染みの家具を持ち込んでいます。壁には職員が作った色紙やカレンダーなどを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族様とも相談しながら車いすや手すりの用意、個々の能力に応じた自立支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷 (ユニット名)たんぼぼ		
所在地	北海道空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0175800309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴城の郷のケア理念にあげている「ひとりひとりのペースを守り共に支えあう」「家族や地域のふれあいを大切にする」を常に念頭におき日々のケアを実践しています。母体の医療法人の協力を得ながら、健康管理や医療面の知識の習得や老健ゆうの協力を得ながら、栄養状態や嚥下、咀嚼、姿勢保持の方法の知識の習得などに力を入れ、皆様が健康に日々過ごしていただけるように努力しています。立地条件的には市街地から離れていますが、建物の空間が広く、開放的な雰囲気です。周囲に畑もあり、自然豊かな環境です。家庭的な雰囲気と個人の時間を尊重しています。入居されている皆様が支えあって生活していけるような支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、皆が確認できるように提示している。事業計画にも盛り込んでいる。また、日々のケア・行事・業務においては理念に基づいて検討、実践している。行事などを通じて、ご家族様や地域の方に来ていただく機会を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地が離れていて交流の場は少ないが、バーベキューや避難訓練に地域のかたへ声をかけ、参加していただいている。学童保育との交流も夏休みの期間を利用し、毎年継続している。南幌神社祭の御神輿見学は関係者のご協力により、鶴城前を通っていただき、皆様、馴染みの習慣に喜ばれていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や地域行事への参加で理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を行っている。報告・話し合いを行い、地域の老人会、保険者からの意見やアドバイスをいただき、運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換を常に行っている。運営推進会議・避難訓練への参加もいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部の研修に参加し、身体拘束をしないケアを実践している。夜間の施錠以外は開けていて、ユニット同士が協力しあい、ゲームや外出などの気分転換を図っている。言葉での抑制にならないように気をつけている。身体拘束廃止委員を中心に身体拘束廃止の指針の理解やセンサーの使用の見直しを毎月行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加や外部の研修会参加をミーティング等で周知、不適切なケアに繋がっていないが振り返っている。日々、言葉や精神面での拘束に注意している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に新規の相談ケースについては制度の説明を行っている。現在は対象者はいないが、経済的な保護を必要とするかについては、関係者にその都度相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、文章を用いてご家族様(必要な場合はご本人様も含め)説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にはご家族様と話し合う機会を設けている。また、法人全体で意見や要望をくみ取るシステムを構築しており、アンケートの配布や意見箱の設置など表しやすい様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例のミーティングやカンファレンスでの話し合いのほか、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える機会を意識している。職員と管理者は年に2回個別面談を行い、悩みや意見を出し合う機会がある。毎月、定例で法人の役職者との話し合いも行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力や業務目標達成に応じた評価を行っている。職員との個人面談を行い、労働条件等の希望や把握に努めている。体調、年齢、家庭の状況を考慮した勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会を設けるほか、グループホーム内での伝達研修を行っている。また、新人職員が入職した時は、研修期間を設け、担当を配置している。個人のスキルアップの研修は、シフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のグループホームとの連絡会議があり、管理者が参加して情報交換や交流の機会を設けている。また、合同で普通救命講習を消防署で行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との会話や活動を通じて、何に興味があるのか、何をしたいのか、落ち着く環境(場所や人)を確認してケアに努めている。ご家族様との連携を密にして情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活スタイルや習慣に即して対応できるようにご家族様との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントなど、入居調整の段階で必要なサービスを把握し、入居時の介護計画サービスを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いや残存能力に応じた家事参加や趣味参加を通じて、日々の暮らしの中での役割や満足を感じていただけるように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の定例のお便り等での情報提供のほか、誕生会や行事への参加、面会時の情報交換など共に考え、参加して頂けるようにしていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話、面会の支援や理美容や歯医者は以前から利用しているところを継続して通っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を重視し、また負担にならないように配慮して食事の座席や外出のメンバー等を考えている。また、あまり交流のない方に関しては、活動やレク、行事でお互いに楽しんでいただけるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先の確保に協力し、利用者やご家族が不安にならないようにしている。入院している時もお見舞いなど伺わせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でご本人の思いや希望をくみ取り話し合い、個別のケアプランを重視したかかりをしている。少人数での外出などを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族様や在宅時のサービス担当者からの情報把握に努めている。ケアマネや入所していた施設からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った1日の過ごし方を重視している。バイタルや精神状態・一般状態の把握を申し送り等を通じて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングで個別の介護計画を作成している。必要に応じて、栄養士やリハビリスタッフ、言語聴覚士を交えて相談をすることができる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが日々の生活記録から、支援経過に落とし込み、モニタリングや介護計画の見直しや日々の問題の原因究明に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他の事業所の専門職や町内の歯科医と連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や学童交流など地域の方々の活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の主治医への定期受診や検査、その他専門医への受診等は、家族と連絡を取りながら希望する医療機関への受診支援を行っている。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への状態報告は毎日行っている。また、毎週水曜日は訪問看護ステーションの職員が来訪し、状態を診て、相談や助言、医師の指示に基づいた処置を受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の環境の変化による負担の軽減のため、場合によってはご家族様の了解を得て、訪問看護を利用する機会がある。入院した場合も病院側と情報交換を密にして早期退院できるように努めている。協力医療機関はそれを十分理解し協力してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に沿って、利用者・ご家族様・医師と相談できる体制を作っている。また、契約時に説明し、ご家族様の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応が困難であることは事前にお伝えしている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防での救命救急の研修や法人の協力を得ながら定期的な研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を実施している。防火訓練には、地域のかたにも協力をしていただき実施している。防災設備確認の部分訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や生活歴に配慮した対応をしている。また、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人様の思いや希望を重視するように心がけている。自己決定の難しい方には、選択できるような工夫や日頃の関わりの中で反映するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや過ごし方を大切にしている。各自の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、馴染みのお店がある方は、外出支援を行い、不安になる方はホームに訪問していただき、カット、パーマ、カラーリングを行っている。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけや盛り付けは役割を持って行っていた。苦手な食材や咀嚼・嚥下の状態に応じて代替え品や食べやすい形態で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂れるように支援している。また、嚥下困難なためのためにトロミ剤やゼリーを作って対応し、水分量が確保できるようにしている。栄養不足のかたには、栄養補助食品を提供し、補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じた口腔ケアを行っている。舌の汚れも必要に応じてケアしている。変化があれば、歯科受診をしてアドバイスをいただいたり、定期的に訪問歯科に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、言葉かけやトイレ誘導を行い、パットやオムツの使用は最小限にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分補給・食物繊維をとるための工夫(果物やイージーファイバーなど)やヨーグルトやヤクルトなどの乳製品や起床時の牛乳の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外は入浴を実施している。気分や体調に合わせて入浴日や時間帯は調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのかたの生活習慣に合わせた就寝・起床介助を行っている。自らの訴えが難しいかたは表情や体調、疲労感などを考慮しながら休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化を医師に報告し、睡眠薬や下剤の調整も細かく行っている。薬剤情報で確認したり、訪問看護師に注意して観察する部分を助言してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や家事分担、各々の活動を通じてその方が得意とするものを行っていただいている。その日の気分によって活動の内容を変えて、柔軟に対応している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出行事や個別での希望に沿った外出の支援を行っている。ご家族様にも外出などをお願いしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を所持している方はいないが、預けていることを理解されており、使用時は職員に依頼してくることがあるので、ご本人に渡すようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けていただいている。希望時は職員が代わりにかけることもある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは、自然豊かな季節の移り変わりを感じられます。明るい雰囲気重視し、制作した作品を飾り、季節感を感じられるようにしている。廊下やトイレは手すりを設置している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や自席の配置を配慮して、自由に気の合った利用者様同士で過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いをして、今まで使用していたものを用意していただいている。湯呑や茶碗、箸なども個々で用意していただき、自分のものと理解できるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族様とも相談しながら車いすや手すりの用意、個々の能力に応じた自立支援に努めている。			

目標達成計画

作成日：平成 30年 11月 4日

市町村受理日：平成 30年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	些細な思いを利用者様やご家族様の意見や要望として、管理者・職員の把握が十分ではない。ご家族様意見ノートは既存しているが継続した活用ができていない。	職員全員が入居者様・ご家族様の意見や要望に耳を傾け、意見や要望をお伺いする。	①ご家族様意見ノートを継続して活用する。 ②プラン開示時は、説明だけでなく、ご家族様の意見や要望のほか、心配ごと等もお伺いするように心がける。	1ヶ月
2	23	入居者様との関わりの中で、思いや意向は耳にすることは多いが、文章化できていない。職員の記憶だけに留まっている。できている・できていないに対するプランになっている。	入居者様のしたいことが実現できるためのプランを作成し、職員全員で実行する。	①生活記録にささいな言葉を意識して記載する。記載時はモニタリングしやすいように赤でラインを引く。 ②暮らしの習慣や趣味・嗜好の記載と変化については、D-2シートの「その他欄」へ記載方法を変更する。 ③それらをもとに入居者様の言葉を大切に文章化し、プランを作成する。	1ヶ月
3	35	非常災害時の連絡体制や冬期の非常災害も想定した緊急時の対応と備蓄の整備が不十分です。	非常災害時の連絡・支援体制・冬季も想定した災害備蓄の整備。	①災害時の連絡方法を統一し、ご家族様へ周知する。 ②停電・断水・冬季に対応できる支援体制と備蓄の整備について、防火委員会へ相談し検討していく。(ランタン、備蓄用食料、小型自家発電、電池、ストーブ) (老健ゆうやみどり野医院へ一時避難の体制と基準) ③持ち出しリストの作成と準備	3～6か月
4	49	車椅子使用者は玄関先の段差、施設周囲が砂利のため、散歩や外出がしづらい。	車椅子の入居者様も気軽に散歩や外出ができる環境を整備する。	①玄関先のスロープの検討 ②施設周囲の舗装の検討	1年～2年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。